

皆川トメ子・山内サトミ

福島県昭和村

概 要

両氏は、昭和村に綿々と受け継がれてきた「からむしだけは絶やすなよ」という言葉をかたくなに守り、農業のかたわら「からむし」を栽培、製品づくりをしている。
また、地域内の活性化と後継者育成の一環として平成6年度に創設したからむし織体験生制度では、企画段階から積極的に関わっている。

評価された点

- ・高齢化のはなはだしい山間の村において、重要無形文化財の原料となるからむしを、本州唯一栽培し、その技を守り伝え、村全体でのからむしを通した村づくり、交流人口の拡大などに寄与している点が評価できる。
- ・「からむし」を絶やさないための努力と、次世代に繋いでいくための働きを評価。農村の高齢の女性が兼業で取り組むためにはかなりの苦労があったと思われるが、その成果が着実に表れている点が素晴らしい。
- ・適性素材と言われながら、時代の市場原理の流れの中で消えかけていた原生・植生を根気強く守り続けてきた熱意は類い稀なる行為である。「愛着と信念」を守るそれらの手作業による農業活動は「織姫」と呼ばれる人々(若い女性)にも心から尊敬され、その熱意を継ぎたいという継承者までを育てている。極めて高い評価に値すると考える。
- ・15年にもわたる人材育成はもちろん伝承の1つのモデルでもある点を評価



羽賀 友信

新潟県長岡市

概 要

2004年の東日本大震災の際に、被災地における外国籍被災者への支援活動より得た要請を元に市町村・地域国際化協会・JICAおよび民間等の協働による外国人の支援体制を構築。
外国人被災者支援について各地で講演し、参画ネットシステム(被災地の外部の国際協力団体が外国籍被災者を支援する体制)の重要性を発信。

評価された点

- ・新潟中越、中越沖地震における外国人支援の活躍はもとより、その経験を通して、地域に市民や団体のネットワークを形成、さらに全国どこでも通じる外国人被災者支援のためのシステムの立ち上げを説くなど目覚ましい働きをされており、羽賀氏の説く日常の多文化共生社会を実践している長岡の取組は地域の範になる。
- ・被災地への支援活動とは、かなりの困難な課題を解決しながら、現場に即し、柔軟で迅速な対応が求められる。時に、最も手立ての薄くなりがちな弱者へ向けた視点と自在で綿密な創意工夫を高く評価したい。



セーラ・マリ・カミングス

長野県小布施町

概 要

「小布施ツシヨン」、木桶仕込みによる日本酒作りの復活、「1530(市ゴミゼロ)プロジェクト」、「小布施見にマラソン」など、地方にありながら、どこにも負けない小布施文化を発信することで、小布施町の人々の誇りと自信につながっている。

評価された点

- ・外から来た人ならではの視点で小布施の街の魅力と社会資源に気付き、高い企画力で次々に事業を展開。その行動力と実現のための調整力を評価。外国人である故の苦労もあったと思われるが、小布施に対する愛情がそれを跳ね返したであろうとも思われ、こうした人材を顕彰する意義がある。
- ・行動力とアイデアで、埋もれていた日本文化の魅力を掘り起こし、起業を様々な文化事業に結びつけている。地域の可能性を上手に引き出していることを評価。
- ・小布施町の資源開発と育成、発信への貢献。



清水 義康

滋賀県長浜市

概 要

イベントの開催や広報活動等によって長浜市の中心市街地への観光客誘致を積極的に進めた。平成18年に開催し66万人の入館者を集めた北近江一豊・千代博覧会等においては中心的な役割を果たし、長きにわたり観光振興・地域活性化への取組を行っている。

評価された点

- ・長浜市の観光開発への顕著な貢献
- ・滋賀県湖北地区を重点的に地域活性化を図り、黒壁のまちとして広く知られ、また、盆梅展の開催を早くから始める等先駆者として高く評価。
- ・永年にわたり、観光まちづくりに取り組んでいることを評価。
- ・組織として力をつけている点を評価。

